「世界一おもしろくないニュース」って何❓～中学生にもわかる「命の大切さ」から選ぶニュースの話題～

はじめに：どんなニュース？

「世界一おもしろくないニュース」は、ジャーナリストの順ちゃん（服部順治）が毎朝届けるニュースです。

ふつうのニュースは、目立つ事件や話題になりそうな出来事から順に報じます。でも順ちゃんは、こう考えました。

> ニュースの大事さは「どれだけの命に関わるか」で決めるべきではないか。

人の命の数は、派手でもなく、笑えもしない。だから「世界一おもしろくない」。でも、一番大事なニュースのはずだ。そういう思いが名前に込められています。

第1章：どうやって生まれたの？

50年前のパーセプトロンから

順ちゃんは50年前の学生時代、「パーセプトロン」という初期のAIで、カメラの映像から形を見分ける研究に成功しました。パーセプトロンは、今のAIの「ご先祖さま」にあたる仕組みです。その後、プログラマーとして働き、管理職を経て、今はジャーナリストとして活動しています。

手作業からの卒業

順ちゃんはこれまで、X（旧ツイッター）や note、ブログで情報を発信してきました。話題を探し、資料をまとめ、動画を作ってYouTubeに上げる。それを全部、手作業でやっていました。

2026年10月、順ちゃんは考えました。

> 「話題探しやまとめ作業はAIに手伝ってもらい、自分は大事な判断に集中しよう。」

ただし、全部を**AI**に任せることはしないと決めました。どの話題を選ぶか、公開してよいかは、必ず人間（順ちゃん）が最後に判断します。

何を「大事なニュース」にするか

順ちゃんが一番知りたかったのは、こういうことです。

> 「本来なら助かったはずなのに、亡くなった人は何人いるのか？」

それを毎日数字で示し、その大きさでニュースの順番を決める。こうして「世界一おもしろくないニュース」の形が決まっていきました。

第2章：毎朝届く仕組み

毎朝7時、順ちゃんのパソコンの中で、次のような「リレー」が自動で走ります。

⏰ 朝7時になる
↓
① データを集める係（Pythonのプログラム）
国（厚生労働省）が公表している、毎月の死亡数を取ってくる
↓
② 計算する係（Pythonのプログラム）
「予測される死亡数」を計算し、実際の数と比べる
↓
③ 記事を書く係（n8nの中のしかけ）
計算結果をニュースの文章に組み立てる
↓
④ 届ける係
スマホの通知アプリ（ntfy）とDiscordに送る
↓
📱 順ちゃんが読んで、内容を確かめる

このリレー全体の「監督」をしているのが **n8n**（エヌエイトエヌ）というソフトです。「何時に、どの係が、どの順番で動くか」を決めています。

プログラムを作ったり直したりするときは、**Claude Code**（AIのプログラミング助手）が手伝います。作業の記録は **Obsidian**（順ちゃんの「外部脳」と呼んでいるメモ帳）に残していきます。

ニュースの書き方：逆ピラミッド

最初に作った通知は、計算の説明や注意書きが先に並んでいて、ニュースらしくありませんでした。順ちゃんはすぐに気づきました。

> 「普通の記者なら、根拠の説明は最後に書くでしょう？」

そこで、新聞記者が使う「逆ピラミッド」という書き方に直しました。

▼ 一番大事な結論（見出し）
▼ 全体がわかる最初の段落
▼ くわしい中身
▼ 根拠・注意書き・出典

忙しい人は見出しだけ、もっと知りたい人は最後まで読めばよい。そういう並べ方です。

第3章：推理のための計算方法

ここからが一番大事なところです。少しずつ説明します。

3-1.「超過死亡」ってなに？

たとえ話で考えてみましょう。

あなたのクラスでは、毎年1月はかぜが流行って、欠席が1日平均3人くらいだとします。ところが今年の1月は、毎日8人休んでいます。

- いつもの年なら休むはずの人数（予測）：3人
- 実際に休んだ人数（実際）：8人
- 多かった分（超過）：8 − 3 ＝ **5**人

「何か、いつもと違うことが起きているぞ」と気づけますよね。

死亡数でも同じことをします。

> 超過死亡 ＝ 実際に亡くなった人の数 − 例年なら亡くなるはずだった人の数（予測）

3-2.「予測」はどうやって作るの？

日本で亡くなる人の数には、2つの特徴があります。

特徴**1**：だんだん増えている（長い目で見た傾向） 日本はお年寄りが増えているので、亡くなる人も年々少しずつ増えています。グラフにすると、右上がりの「まっすぐな線」に近くなります。

特徴**2**：季節で上がったり下がったりする（季節の波） 冬はインフルエンザや寒さで亡くなる人が多く、夏から秋は少なめです。これが毎年くり返されるので、グラフにすると「波」になります。

そこで予測は、

> 予測 ＝ まっすぐな線（増えていく傾向） ＋ 波（季節の変化）

という形で作ります。

3-3. フーリエ解析：波を組み合わせる

「波」を数学で表すときに使うのが、サイン（**sin**）とコサイン（**cos**） という関数です。高校の数学で習います。くり返す波の形をしていて、どんな複雑な波も、いくつかのサイン・コサインの波を重ねると表せます。この考え方を フーリエ解析 といいます。

順ちゃんのニュースでは、2つの波を重ねています。

- **1**年で**1**回上下する波：冬に高く、夏に低い
- 半年で**1**回上下する波：冬の山の「とがり具合」を表す

最初は1年の波だけで計算していました。半年の波を足したら、予測が実際のデータにずっとよく合うようになりました。この「どれだけよく合うか」を表す数字を **R²**（アールにじょう）といい、1に近いほどよく合っています。

使った波	**R²**（合い具合）
1年の波だけ	0.875
1年の波＋半年の波	**0.936**

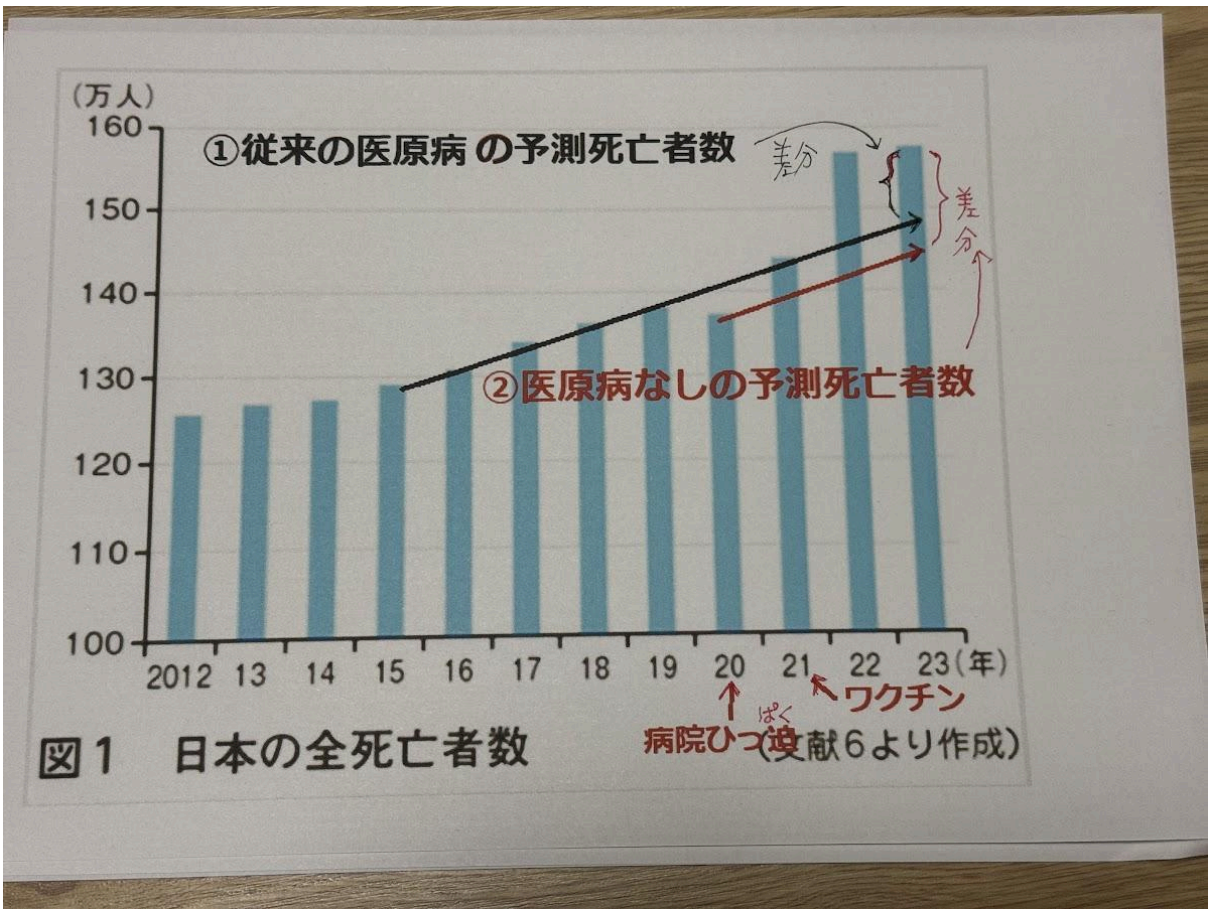
この「まっすぐな線＋波」で死亡数を予測するやり方は、**Serfling**（サーフリング）モデル と呼ばれます。インフルエンザの流行を調べるために、昔から世界中で使われてきた方法です。

> 💡 工夫：**1**日あたりで計算する 2月は28日しかないので、ほかの月より死亡数が少なく見えてしまいます。そこで「1か月の死亡数」ではなく「1日あたりの死亡数」で計算し、最後に日数をかけて戻しています。

3-4. 2つの「ものさし」：順ちゃんの推理

ここからが、順ちゃんならではの考え方（推理）です。

![[図1_日本の全死亡者数_2つの基準.jpg]]



順ちゃんは、予測の「ものさし」を2本用意しました。

ものさし①：**2015～2019**年の傾向をのばしたもの（黒い線） コロナより前の5年間のデータで作った予測です。この時期の死亡数には、もともと「医原病（いげんびょう）」で亡くなった人もふくまれている、と順ちゃんは考えます。

> 📖 医原病とは？ 薬の副作用や、手術・治療が原因で起きてしまう病気のことです。

ものさし②：**2020**年を基準にしたもの（赤い線） 2020年は、コロナで病院がいっぱいになり、多くの人が病院に行くのをひかえました。すると不思議なことに、この年は亡くなった人が予測より少なかったのです。

順ちゃんはこれをこう推理しました。

> 「病院に行かなかったおかげで、治療や薬が原因で亡くなるはずだった人が助かったのではないか。つまり2020年は、医原病がほとんどない状態の死亡数ではないか。」

3-5. 2本のものさしで何がわかる？

2021年からは、コロナワクチンの接種が始まりました。

順ちゃんは、2本のものさしの差を、こう読み解きます。

計算	順ちゃんの推理	**2021**年以降の累計
実際 − ものさし①	コロナワクチン関連の死亡	約41万人
（実際 − ものさし②）−（実際 − ものさし①）	コロナワクチン以外の医原病の死亡	約20万人

わかりやすく言うと、こうなります。

- ものさし①には従来の医原病がもともと入っているので、それを上回った分は「新しく加わったもの＝コロナワクチン」と推理する
- ものさし②は医原病がない状態なので、①と②の差は「従来の医原病」と推理する

⚠️ ①と②を足した数字には意味がありません。数え方の違う2つのものさしだからです。

3-6. 毎朝のニュースに出る数字

2026年10月29日のニュースでは、こうなりました。

- 最新のデータ（2026年8月）の死者：122,354人
- コロナワクチン関連（順ちゃん推理）：2021年以降で約41万人。直近は1日あたり約19人のペース
- 医原病（コロナワクチンを除く・順ちゃん推理）：2021年以降で約20万人。1日あたり約98人の速さで一定

医原病の「1日あたり約98人」は、2020年に減った分から計算した速さを、そのまま毎月当てはめた数字です。そのため、毎月の実際の死亡数が変わっても、この数字は変わりません。

第4章：大事な注意点（批判的に考える力）

順ちゃんのニュースには、必ず最後に「注記」がついています。ここがとても大事です。

計算でわかること・わからないこと

計算でわかること

- 予測より「何人多く亡くなったか」

計算だけではわからないこと

- 「なぜ」多く亡くなったのか（原因）

予測より多く亡くなった理由としては、ほかにもいろいろな説明が考えられます。

- コロナに感染して亡くなった人
- お年寄りの増え方が、予測より速かった
- 夏の猛暑
- 2020年に死者が少なかったのは、マスクや手洗いでインフルエンザが減ったから、という説明もある

だから順ちゃんは、原因の部分を必ず「順ちゃん推理」と書いて、それが 仮説（まだ証明されていない考え）であることをはっきりさせています。

なぜそこまで気をつけるの？

数字は強い力を持っています。「41万人」と聞くと、それが確かな事実のように感じてしまいます。

だからこそ、

- どうやって計算したか（ものさしの作り方）
- どこからデータを取ったか（出典：厚生労働省の人口動態統計）
- どこまでが計算で、どこからが推理か

を全部見せることで、読む人が自分で考えられるようにしています。

> 💡 ニュースを読むときのコツ どんなニュースでも、「その数字はどうやって出したの？」「ほかの説明はないの？」と考えるくせをつけると、だまされにくくなります。

そのほかの注意

- 死亡の統計は約2か月遅れで発表されます。だから「今日の死亡数」は実際の数ではなく、計算で出した「見込み」です
- 2025年以降の数字は「速報値」です。あとで確定した数が出ると、少し変わることがあります
- 世界の数字（3と4）は、毎月更新される世界のデータがまだ見つかっていないため「準備中」です

第5章：これからの計画

順ちゃんは、この考え方を、ほかの出来事にも広げようとしています。

- 戦争やテロ：過去の似た出来事の死者数から、予測を立てる
- 台風や地震：規模（風の強さや揺れの大きさ）から、予測される死者数を立てる

そして、予測される死者数が大きい出来事から順に報道する。これが「世界一おもしろくないニュース」の最終的な姿です。

用語集

言葉	意味
超過死亡	実際の死亡数から、例年なら亡くなるはずの数（予測）を引いた差
医原病	薬の副作用や、手術・治療が原因で起きる病気
フーリエ解析	複雑な波を、サイン・コサインの単純な波の組み合わせで表す方法
Serflingモデル	「まっすぐな線＋季節の波」で死亡数を予測する方法
R^2	予測がデータにどれだけ合っているかを表す数字（1に近いほどよく合う）
速報値	早めに出される仮の数字。あとで確定値に置きかわる
仮説	まだ証明されていない、ひとつの考え・推理
n8n	「いつ、何を、どの順番で動かすか」を決める自動化ソフト
Python（パイソン）	データの取得や計算に使っているプログラミング言語
ntfy・Discord	スマホやパソコンにお知らせを届けるアプリ
Obsidian	順ちゃんが「外部脳」と呼ぶメモ帳ソフト